

海外食料需給レポート

(2021年4月)

令和3年4月28日

農林水産省

目 次

概要編

I	2021年4月の主な動き	1
II	2021年4月の穀物等の国際価格の動向	2
III	2020/21年度の穀物需給（予測）のポイント	2
IV	2020/21年度の油糧種子需給（予測）のポイント	2
V	今月の注目情報 米国の2021年産の作付けと生産を取り巻く状況	3

(資料)

1	穀物等の国際価格の動向	6
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	7
3	令和2年10月以降の食品小売価格の動向	8

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
2	とうもろこし	8
3	コメ	13
II	油糧種子	
	大豆	19

【利用上の注意】

(概要編)

I 2021年4月の主な動き

1 史上最高を更新するブラジル大豆生産・輸出

3月に入り、作付け遅れと収穫期の降雨で遅れていた大豆の収穫が本格化した。主産地の中西部のマトグロッソ州では収穫は3月末でほぼ終了、南部のリオグランデドスル州では4月8日時点で収穫率は39%、パラナ州では4月12日時点で98%となっている。

一方、大豆の生産見通しは、リオグランデドスル州の作柄の改善等から上方修正され、ブラジル食料供給公社（CONAB）の穀物レポート（2021.4.8）によると3月よりさらに上方修正され、1億3550万トンと史上最高の見通し。

なお、輸出については、米国農務省（USDA）によれば、ブラジルの3月の大豆の輸出量は、1,350万トンと過去最高だった2020年3月の1,090万トンをぬりかえた。

2 中国の穀物備蓄と伸びる飼料用小麦・コメ需要

中国の小麦の飼料用需要は、前年11月以降、USDAの需給報告において6か月連続で上方修正され、4月見通しでは前年度の倍以上の4,000万トンが見込まれている。とうもろこしの価格高騰に伴い、飼料用向けに国内の備蓄の小麦が競売で放出されたことが要因。

コメについても、飼料用向けにインド産砕米等の輸入が行われているとみられる。

なお、中国国家糧食物資備蓄局の4月2日の記者会見等によれば、中国のコメや小麦の在庫は需要の1年以上あり、仮に飼料用需要が増えても需給に大きな影響はないとしている。

写真：節間成長期の冬小麦 山東省
降雨に恵まれ生育は順調
（4月8日撮影）



3 干ばつ被害を受けた台湾と史上最高の豊作のフィリピンのコメ

台湾の2020/21年度のコメ生産は56年ぶりともいわれる干ばつの影響を受け、USDAによれば、前年度比23%減の90万精米トンの見通し。台湾では2020年は1964年以来、初めて台風の到来がなく、中部と南部の灌漑用水の貯水量は平年の20%以下となっていた。台湾では主にジャポニカ（短粒）種が栽培されている。

一方、台湾の南に位置するフィリピンでは対照的に、2020/21年度は前年度より4%増で史上最高の1240万精米トンの豊作となる見通し。政府の自給率向上に向けた「Plant Plant Plant Program」で種子の品質向上や機械化が進展し作付面積が増加したことに加え、降雨に恵まれたことも要因。フィリピンでは、長粒種が栽培されている。

II 2021年4月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、3月末、220ドル/トン台後半で推移。3月31日発表の米国作付意向面積報告による大豆、とうもろこしの価格上昇に追随し値を上げた以降も、米国春小麦産地での乾燥天候による作付けへの影響懸念や、米国冬小麦産地の低温・乾燥天候による生育への影響懸念から値を上げ、4月下旬現在、240ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、3月末、220ドル/トン台前半で推移。3月31日発表の米国作付意向面積報告が市場予想を下回ったことからストップ高を付けて以降、米国产とうもろこしの好調な輸出成約と低水準なエタノール在庫に加え、中西部の低温による作付け、生育への影響懸念から値を上げ、4月下旬現在、240ドル/トン台半ばで推移。

コメは、3月下旬、520ドル/トン台半ばで推移。4月に入り、乾季米の新穀の市場流通による国内価格の低下、旧正月を控え低調な輸出需要、パーツ安から値を下げ、4月下旬現在、500ドル/トン前後で推移。

大豆は、3月末、520ドル/トン台後半で推移。3月31日発表の米国作付意向面積報告が市場予想を下回ったことからストップ高を付けた後、4月9日の米国農務省穀物等需給報告でのブラジル産大豆の豊作見通し等により下落も、4月中旬以降、中西部の低温による作付け、生育への影響懸念から再び値を上げ、4月下旬現在、550ドル/トン前後で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

III 2020/21年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から60万トン上方修正され27.3億トン。消費量は、前月から1,010万トン上方修正され27.5億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り28.7%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前月と比較して、小麦、コメで下方修正も、とうもろこしで上方修正され、穀物全体で上方修正され27.3億トンの見込み。

消費量は、前月と比較してコメで下方修正も、小麦、とうもろこしで上方修正され、穀物全体上方修正され27.5億トンの見込み。

貿易量は、コメで下方修正も、小麦、とうもろこしで上方修正され、4.8億トンの見込み。

期末在庫量は、7.9億トンと前月より下方修正され、期末在庫率は前年度を下回る。

(注：数値は4月の米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

IV 2020/21年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.0億トン。消費量は前年度を上回り6.1億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、16.5%となる見込み。

(注：数値は4月の米国農務省「Oilseeds : World Markets and Trade」による)